

シラバス参照

科目名	経済政策 I
配当年次	2年次
開講期間	前期
単位数	2
担当教員	貫 真英(ヌキ マサヒデ)
期間・曜日・時限・教室	前期 水曜日 5時限 22-404

※	
授業の目的・目標	<p>(1)授業の概要 本講義は企業の実力を導き出す競争政策など、各産業や消費者や労働者の利益保護を意図した政策を学びます。</p> <p>(2)授業の目的 経済政策の論理を理解した上で、理論と現実をバランスよく理解することを目的とします。</p> <p>(3)習得できる力 ①知識・理解 (4)授業の到達目標 消費者や市民の目線から、自分たちの生活がどのように経済政策によって影響を受けており、また経済政策の変化にどのように対応していくべきかという視点で学生自身が考えていけるようになることを到達目標とします。</p>
準備学習等の指示	<p>事前に入門ミクロ経済学を受講していると理解しやすい内容です。授業の講義動画を視聴した後、課題に関して十分に自分でも調べ、取り組んでください。</p> <p>1回の授業につき3時間の準備・ふりかえり学習を実施してください。</p>
講義スケジュール	<p>以下にあげた流れに沿って講義します(カッコ内は各テーマにおける代表的な問いです。それ以外の政策課題についても論じていきます)。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンスと経済政策概説 授業の進め方、評価のされ方、経済政策とは何かを理解する 2. 市場への政府介入1 価格の決定と市場の安定性について説明できる。 3. 市場への政府介入2 余剰分析と完全市場の効率性の理解を通じ、(なぜ計画経済は失敗し市場経済は残ったのか?)を説明できる。 4. 市場への政府介入3 余剰分析と完全市場の効率性の理解を通じ、(参入規制の意味と弊害)を説明できる。 5. 税金と補助金の影響1 価格弾力性の理解を通じ、(たばこ増税で税収は増えたか?)を説明できる。 6. 税金と補助金の影響2 補助金と固定買取制度の理解を通じ、(食管法は何が問題だったのか?)を説明できる。 7. 税金と補助金の影響3 価格の下限規制と上限規制の理解を通じ、(生活必需品を安くする価格規制や最低賃金は廃止すべきか?)を説明できる。 8. 国際貿易1 自由貿易と輸入制限の理解を通じ、(輸入制限はなぜ廃止された?)を説明できる。 9. 国際貿易2 関税と生産者補助金の理解を通じ、(関税は廃止されるべき?)を説明できる。 10. 公益事業と競争政策1 自然独占と独占利潤の理解を通じ、(東京電力が地域独占なのはなぜ?)を説明できる。 11. 公益事業と競争政策2 独占企業の価格規制と自由化政策の理解を通じ、(電力自由化は何がいい?)を説明できる。 12. 外部性と公共財1 負の外部性とピグー税理解を通じ、(公害はゼロにすべき?)を説明できる。 13. 外部性と公共財2 公共財と准公共財の理解を通じ、(橋や道路は政府が供給すべき?)を説明できる。 14. 外部性と公共財3 コースの定理と取引費用を通じ、(政府は公害問題に介入すべきじゃない?)を説明できる。 15. まとめと試験 前期の内容について理解し問題に答える。
教科書	八田達夫『ミクロ経済学1』東洋経済新報社。
参考文献	岩田規久男・飯田泰之『ゼミナール経済政策入門』日本経済新聞社。 その他、必要に応じて取り上げる。
授業の方法	オンライン講義
成績評価方法	学期中の確認問題40% その他の課題60% 評価基準 期末試験は行わず、学期中の課題、途中式や答えに至る思考の記述を重視して評価します。
オフィスアワー	

	水曜5限、木曜5限、金曜4限
居室	23号館3階 貫研究室
ホームページ	
その他特記事項	
添付ファイル	